

総論

満点	150点	目標得点	100点	試験時間	120分	偏差値	72
大問数	1	小問数	10				
【解答形式】		選択式	0/10問	記述式	10/10問	論述式	0/10問
【問題難易度】		C	2/10問	B	5/10問	A	3/10問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：例年、超長文（1100～1500 words で4ページ以上にわたる英文のこと）が1本出題されるが、本年度の英文の量は1800語弱に増加した。難易度・設問形式に大きな変化は見られないが、本年度は文整序問題が追加された。
- 2：解答形式は全て記述で、大量に書くことが要求される。
- 3：英和・和英・英英辞典のうち2つまで試験に持ち込み可能（電子辞書は不可）。つまり、正確な英文読解力と綿密な答案作成が要求される。英和辞典は必須であるが、和英・英英辞典のどちらをもっていくかであるが、英英辞典の *Longman Dictionary of Contemporary English* (LDOCE) を持参することを薦める。

こんな力が求められる！

①英文和訳力

慶應-文の合格者は和訳問題で点数を取っている。本年度の問題ならば（I）（III）（VI）の問題でいかに満点に近い解答を書けるかが勝負の分かれ目になる。そのため、正確に英文の構造を分析できる力が求められる。たとえば、（I）の問題で、A rather than B のAが“the act of talking and communicating”であることを10秒以内に見抜けるだろうか？

こうした英文の構造を正確かつ迅速に見抜く力は、1年間テキストをしっかりと学習して育成される。Advanced 英語在籍者であれば、合格可能な学部である。Advanced 英語クラス在籍者はSTRUCTURE、OS 英語クラス在籍者はテキストのReading【1】の問題の全訳に命を賭けよう。その際には、英文の構造分析・直訳・解りやすい日本語の作成という3段階の手続きを必ず踏むこと。継続すれば、（X）の要約問題をも解ける力が必ず付く。

②知的体力

初めて慶應-文の問題を見る人は「長い！ こんな英文読めるのか？」とショックを受ける。英文は他大学に比べて圧倒的に長く、しかも専門的ですからあるからだ。本年度の問題は「会話の意義と歴史的・文化的変遷」がテーマになっていて、古代ギリシャから現代に至るまでの会話の形態が素描されている。ここで、「古代ギリシャ」から「哲学者ソクラテス」を連想できるだろうか？ あるいはプラトンは？ 二人の哲学者が頭に浮かぶなら英文の内容は掴み易い。彼ら是对話を重んじて真・善・美を追求した。こういう知識をどれだけ受験勉強で蓄えられるだろうか。

つまり、様々な英文や本を読み、その内容を自分の知識にたくさん蓄えていけば、英文も読み易くなるし、読むスピードも上がっていく。読書量がものを言うと言っても過言ではない。慶應-文の小論文の可否左右度が他学部に比べてもかなり高い理由もここにある。参考までに『ちくま評論選—高校生のための現代思想エッセンス』（筑摩書房）を挙げておく。知的体力の向上に繋がる良書である。そして、千葉大・大阪大・一橋大・青山学院大（文）・関西大などの過去問は、程度の差はあれ、慶應-文の英文の長さ・問

Benesse® お茶の水ゼミナール

題形式が似ている。10月以降にはこれらの大学の問題を少なくとも5年分は解こう。

大同別分析

【1】*文学部の問題は大問が1つのみである。

予想配点 *各問ごとに示す。 (I) 15点 (II) 10点 (III) 15点 (IV) 10点 (V) 10点 (VI) 15点 (VII) 10点 (VIII) 10点 (IX) 20点 (X) 35点 /150点	時間配分の目安 120分 時間は十分にあるので、各小問に制限時間を設けずじっくり解くとよい。
出題内容 長文問題 [Word数] 1782 words 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』PART2,3 『完熟』PART3 [長文テーマ] 会話形態の歴史・文化的変遷	
出題形式 和訳・同意文選択・同意内容文の完成・指示語説明・説明文完成・段落内文整序・内容説明	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (I) A (II) C (III) B (IV) A (V) B (VI) C (VII) A (VIII) B (IX) B (X) B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ①『でか単』の早期完成。夏までにはPART2までは完成させよう。そしてテキストの長文で出てきた重要単語も必ず覚えていくこと。 ②Advancedクラス在籍者はSTRUCTURE、OSクラス在籍者はReading【1】の問題を全訳して授業に臨むこと。単語を辞書で引く際には、品詞を推測してから辞書で調べること。	

●本大問の特徴・概要

会話形態が歴史の流れにおいて様々な形をとりながら推移してきたことが述べられている。ワード数は1782語で、5ページにわたる超長文を読まなければならない。

設問形式は例年通り、英文和訳3問(I)(III)(VI)、同意英文の選択(II)、指示語の内容説明(V)、和文英訳(IX)、内容要約(X)と変わらない。文整序問題である(VIII)の問題は久々の登場であるが、合格者は全員正解だった。また、(IV)のAs difficult as it is generalize...をThough (Although) it is often hard...に書き換える問題も全員ができていた。英文の前半は会話の形態、英文の後半は「会話の行われた場所」について述べられていることがポイントである。その点が掴めれば、(X)のthe salonとthe porchという会話に使われた場所の違いは書けるはずだ。

●注目すべき小問

(I)

matterは頻出語の動詞で「重要である」。rather A than BのAがthe act of talking and communicatingに相当する。合格者は全員ができていた。

(II)

On a given morningとin a series of different conversations and discussionsの解釈が決め手となる。a / any given...「与えられた⇒定められた⇒どんな…」と最も意味が近いのはtypicalである。英和辞典には「典型的な・特有の…」と記載されていて、typicalのニュアンスを掴みにくくなっているが、Longman Dictionary of Contemporary Englishは、2番目の定義に“happening in the usual way”と記載している。たとえば、On a typical day, our students go to classes from 7.30 am to 1 pm. (普段、生徒は7時から午後1時まで授業に出ている。) 英英辞典は単語のニュアンスをつかむのに最適である。是非LDOCEを試験場に持参しよう。

(III)

would ratherはI wishとほぼ同意の表現で、お茶ゼミテキストの4月期②-4で既習済み。後ろに過去形の文を導くことができる。take a courseは「(物事の成り行きや計画が一定の)方向をとる」の意。このイ

Benesse® お茶の水ゼミナール

ディオムに気づくかどうかのポイントである。日頃の復習と英文和訳の訓練を怠ることがなければ、必ず解答できる問題である。

(IV)

As difficult as it is generalize ... 「…を一般化するのは難しいことではあるが」。この時期の受験生は接続詞 as には「譲歩：～だけれども」の意があり、受験英語では頻出事項であることを叩き込まれている。例えば次のような英文だ。Young as he is, he is a man of ability. (彼は若い、有能な男だ。) この形式に慣れすぎた人は戸惑ったかもしれない。こういう時のために辞書がある。辞書には「(主に米) As young as he is も可」と記載されてある。つまり、既存の知識に当てはまらないことに出くわしても、手元の資料で調べ、正しい情報を検索する能力が問われている。

(V)

this の指示内容は前の内容を受けている。つまり、“...Socrates used conversation to explore idea on right and wrong, happiness and existence.”を受けている。この部分を 30 字以内でまとめる。日本語の表現力が問われている。とにかく「記述力」をつけよう。

(VI)

“A penny admission”の訳出がポイント。admissionには「許可」 以外に「入場料」の意味がある。したがって直訳は「1ペニーの入場料は～することを意味した」になる。ここからわかりやすい日本語に変換することが求められる。「1ペニーの入場料を支払えば～は一することができた」。和訳の練習をどれだけ積んできたかが問われている。とにかくテキストの英文和訳に励むべし。

(VII)

下線部の問題は *The Oprah Winfrey Show* とはどのようなテレビ番組なのかを聞いている。一言でまとめると、「視聴者参加型」のTV番組である。その視聴者とは、スタジオに参加している観客だけでなく、お茶の間の視聴者も含まれる。従ってアには studio が入る。「家」に引っ張られて、イに house と書いてしまうかもしれないが、at という前置詞があるのだから、home という一語が正解。ここで文法力が問われている。

(VIII)

英語の文の論理の基本は、「漠然とした内容から、具体的内容へ」という流れである。選択肢の選択肢 a. の英文を見ると these という指示語が付いていることに気づくだろう。こういう指示語がついた英文は前の何らかの内容を受けているのだから、順番は必ず後にくるはずだ、と予想しておく。すると、other types of discussion groups → Book groups → Church prayers groups → These conversational formats という流れが見える。英文整序問題の力はセンター試験の過去問を 20 年分解けば十分に定着する。

(IX)

7 段落 2 行目にある、doubted whether...を借用すればよい。また「インターネットや電話を用いて」を表したいのなら、over the Internet / the phone と書く。

(X)

the salon については第 6 段落、the porch については第 9 段落を読んで解答を作成する。「設定された場所」・「集まる人々の特徴」・「議論の話題」の 3 点に絞って解答を作成するとよい。